

<b>授業科目名</b>	音楽表現 A (ピアノ・歌) (2100736)		
<b>時間割名</b>	音楽表現 A (ピアノ・歌) (34109)		
<b>時間割担当</b>	青山雅哉		
<b>実施期</b>	通年	<b>単位数</b>	2 選択
<b>曜日・時限</b>	水・4		

### 授業の目標・概要

音楽の主要な要素であるリズム・ハーモニー・メロディへのそれぞれの理解を深め、ピアノを主体にした音楽表現の実践的基礎力を身につけていく。そのために学習指導要領にある共通教材を用いて、読譜や視唱・初見演奏・聴音等での講義とバイエルやツェルニーでのピアノ演習を行っていく。音楽表現の聴く、弾く、歌う、それぞれの音楽力の基礎とピアノ演奏技術の基礎力を修得していく。

### 学習の到達目標

音楽力の基盤となる音楽表現の基礎として以下の目標を置き、実践力を養っていく。

- ・音楽の基礎となる知識を修得している。
- ・音楽表現に必要な技術を身につけている。
- ・音楽的知識や技能向上について考えることができる。

### 授業方法・形式

ピアノを中心に、個々に対応したレッスンを行なう。音楽表現の実践発表も行なっていく。

### 授業計画

- 第1回 オリエンテーション：講義内容の概説、音楽と楽譜について確認する。
- 第2回 五線と加線、音部記号と譜表、小節、音符と休符、拍子記号について確認する。
- 第3回 強拍と弱拍、タイ、変化記号について確認する。
- 第4回 リズム練習、読譜練習
- 第5回 2つのパートのリズム練習、読譜練習
- 第6回 旋律課題による読譜・視唱・初見演奏 (1) ト音記号
- 第7回 旋律課題による読譜・視唱・初見演奏 (2) ヘ音記号
- 第8回 旋律とリズムの組み合わせ課題による読譜・視唱・初見演奏 (1) ト音記号
- 第9回 旋律とリズムの組み合わせ課題による読譜・視唱・初見演奏 (2) ヘ音記号
- 第10回 2声の課題による読譜・視唱・初見演奏 (1) 右手での弾き歌い
- 第11回 2声の課題による読譜・視唱・初見演奏 (2) 両手での弾き歌い
- 第12回 旋律と拍子の関係による聴音について学ぶ。(1) 2拍子、4拍子による聴音
- 第13回 旋律と拍子の関係による聴音について学ぶ。(2) 3拍子、6拍子による聴音
- 第14回 音階と調性、和音について学ぶ。
- 第15回 移調奏と伴奏付けについて学ぶ。
- 第16回 音楽表現(読譜・聴音)でのレベルの確認
- 第17回 課題(八長調・ト長調・ヘ長調)による読譜・視唱・初見演奏
- 第18回 課題(二長調・変口長調・イ短調)による読譜・視唱・初見演奏
- 第19回 課題(八長調・ト長調・ヘ長調)による初見の視唱と演奏による弾き歌い
- 第20回 課題(二長調・変口長調・イ短調)による初見の視唱と演奏による弾き歌い
- 第21回 各調性の譜表と和音、カデンツについて学ぶ。
- 第22回 移調奏と伴奏付けについての演習(1) 八長調・ト長調・ヘ長調
- 第23回 移調奏と伴奏付けについての演習(2) 二長調・変口長調
- 第24回 課題による多様な調による聴音 (1) 八長調・ト長調・ヘ長調
- 第25回 課題による多様な調による聴音 (2) 二長調・変口長調
- 第26回 課題による多様な調による2声聴音 (1) 八長調・ト長調
- 第27回 課題による多様な調による2声聴音 (2) ヘ長調・イ短調
- 第28回 課題による多様な調による2声聴音 (3) 二長調・変口長調
- 第29回 旋律への和声付けについての総括 (1) 長調
- 第30回 旋律への和声付けについての総括 (2) 短調

### 成績評価の基準

授業中に行う小レポートと課題レポートを中心に評価し、授業に対する取組度、理解度をチェックしていく。(40%)さらに学期末試験において総合的な習熟度を確認する。(60%)

### 準備学習・復習及び授

業で指摘された内容の復習と、授業毎に出される次回授業への課題に対し、その練習や準備を行なっていくこと。

### 履修上のアドバイス及

普段から様々な音楽的知見を広げていこうとする関心や意欲を求めていく。音楽理論の基礎となる「楽典」の理解も踏まえて展開していく。

## 教材・教科書

1. 大学音楽教育研究グループ編集「歌唱教材伴奏法」教育芸術社
2. パイエルピアノ教則本 全音楽譜出版社、ツェルニーピアノ練習曲 全音楽譜出版社

## 参考書

特になし